

# がんばれミミズ君ダイアリー

—ミミコンずぼらな記録 その2 (2006-2008) —

■2008年11月29日 バンザイ風船かずら

1. 寒くなってからもビオラはチラホラ咲いている。元気はない。寒いからねえ。



2. ビオラの種を蒔いたのに、ミントが征服してしまったプランタ(右上)と鉢(下)。昔お向かいから種が飛んできて我が家で成長したミントを鉢植えにして、もう何回も冬を越した(左)。この秋種がまき散らされたのだろう。



3. 旧トマトプランターで育つ風船かずら。両脇に通した誘導紐までは茎が届き、万歳をしているように見える。10月にはまだまだ勢いよく成長していたが(10月4日参照)、さすがにこここのところ成長は止まった。あとは茶色くしおれていく。そろそろ種を取っておこう。



4. ナンテン。以前からシロミナンテンと聞いていて、赤い実なのにシロミナンテンと言うのかと思っていたが、やっぱり普通のナンテンじゃないか。シロミナンテンの実は白い！



■2008年11月22日 茨城県立歴史館の銀杏

1. 茨城県立歴史館へ銀杏を撮りに行く。



2. 先月デジカメが壊れて、今回は携帯電話の写真。朝9時。絶好の銀杏見(?)日和で、並木の縦方向に向けてカメラを構える人が何人か。三脚を持ち込んでいく女性もい

3. 銀杏の写真を撮り終えて出口へ向かうとき、ふと見ると自分の影が朝日の中に。Men in Black...じゃないか。



4. 因みにただ今『幕末日本と徳川斉昭』開催中。

た。それにしても手前が色が抜けて白くなるのはどうしてか。

■2008年10月19日 ポツポツビオラとヒイラギバッサリ

1. 植木鉢を総動員して撒いたビオラの種(9月7日)。3つだけ咲いた。



2. これは何という花だったか。庭があるんだから仏壇の花くらい何とかならないかと思っていつか株を植えた。土に栄養がなくて貧弱。



■2008年10月4日 ハナミズキの実と雨上がりのミミズ

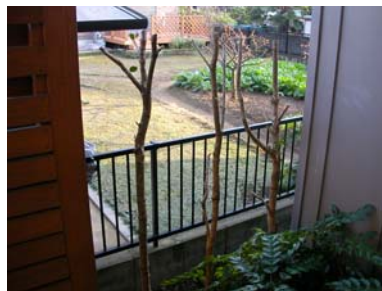
1. 9月7日の日記でヤマボウシの実を紹介しましたが、今日はハナミズキの実です。毎年なのですが、今秋はやたらと目立ちます。葉っぱも紅葉し始めていて、あっという間に真っ赤になります。



2. 雨上がりの朝、道路にミミズが這い回っているのを見かけます。ミミズが気圧の違いを感じた行動だとか。我が家のミミズ箱では、雨上がりの朝に蓋をあけると、箱の一番上の縁にムシャムシャと張り付いています。一挙公開。目を背けたい方もあるでしょうから小さくしておきましょう。



3. 玄関のヒイラギ3本を途中から切る。葉っぱも全部落とす。葉が白く斑模様か茶色い斑点に侵されている。風通しが悪いからだ。いつからかすっかり成長も止まってしまっていた。悪いことに足元のヒイラギナンテンも感染。トップジンMの1,000倍希釈液1リットルを用意。明日早朝に散布しよう。ヒイラギ亡き後はすっかり見通しがよくなった。明るくなってよいが、見えすぎか。仕方ない。ヒイラギがまだ生きていて葉を出すことを祈ろう。



4. (以下余白…)

4. 蓋の裏に大人のミミズ、青年期のミミズ、子供のミミズがいたので写真を撮っておきました。箱の上縁にも赤ん坊ミミズはいっぱいいました。箸でつまみ上げるにも掻き落とすにも大変気を遣います。そっとしないとつぶれちゃいますからね。(ここは良く見ないと赤ん坊ミミズが見えないから、大きな写真にしておきます。一番下の手の写真はずっと以前に撮ったもの。)





3. 箱の裏に黒い点々。これはミズズのウンチです。夜中に箱の裏を這い回った証拠。



4. 最後に庭の様子。東から西を眺めたもの。右端にモサモサと見えるのは9月になって撒いた種から育った風船カズラ。去年トマトを育てたプランターで、さすがに土に栄養があるのか、ムキムキと育つ。この涼しいのに。土の栄養は大事なんだなあ。庭の他の場所の風船カズラはしょぼい。



■2008年9月7日 これといって何もしなかった夏

1. ヒペリカム・カリシナムはどうなるか、ヒマワリはどうしようか、風船カズラは…とと思っているうちに夏は過ぎてしまいました。それでは前回6月14日のダイアリーからの経過報告です。

2. ヒペリカムは、買ってきた4株のうち猫のウンチ場所から離れたところに植えた一株だけが生き残りました。一時葉が茶色になりかけ、「■2002年秋 カリシナム全滅」(がんばれミズ君ダイアリー その1:2005年まで)の再来かと恐れたが、トップジン液を噴霧。

3. その後は、下の写真のとおり、元気なこと。見事に復活です。右隣に映っているのは紫蘇。どこからか(おそらく我が家の庭)種が飛んできたのだろう。葉が虫に食われていたが、こちらトップジンのお陰で虫食いはなくなりました。



4. 猫のウンチ場所かその近くに植えた3株は枯れました。枯れた苗を土から引っっこ抜いてみると、根が、買った

9. それでも2週間ばかり待った結果、小さな葉がポツポツと出ている。蒔いた種の2, 3割か。雑草かも知れない。構わず、本日、しつこく残りの種をもう一度植木鉢に蒔いたのでした。西側花壇にビオラが咲き乱れるのは一体いつになるのでしょうか。今年失敗しても、ここまでやったのだから、来年も種から挑戦してみよう。

10. アカパンサスが花を終え種が出来ている。が、ウェブサイトによればアカパンサスは株分けで増やすらしい。種を蒔いてもいいが、花を咲かせるまでに5年くらいかかるとのこと。もう2, 3株欲しいと思っている。いずれ株分けしよう。

11. ヤマボウシ(山法師:ミズキ科ヤマボウシ属)が赤い実をつけた。ポツポツと落ち始めている。甘酸っぱくて食べられるらしい。3つほど庭に埋めた。どうなるでしょうか。

ときの黒いプラスチック・ポットの形から全く外に伸びていなかった。あれでは栄養を吸収することもできなかったろう。可哀想なことをした。

5. 種を蒔いてもいないのにヒマワリが一輪だけ咲いた。種類は…忘れた。去年蒔いた種か、あるいは花から落ちた種が、雌伏1年、芽を出して立派に育ちました。

6. 風船かずらは種を10粒くらい蒔きました。普通は5月か6月に種まきをするのだから、今から蒔いて発芽してもあまり成長はしないでしょうが、放っておくとお互いの茎に蔓を巻き付けあう状態になるだろうから、ヒモを張ったり園芸用の棒を立てたり。どの程度まで育つのか、種まで作るのか。

7. 風船かずらもヒマワリも、実は種を蒔こうと思ったときにはすでに時期が遅かったのです。その代りにこの夏に試してみたのはビオラ。8月中頃、種から育てようと土を作り、家にある大小の植木鉢を総動員。「蒔いた」というより、ケシ粒のような小さな種を、一粒一粒ピンセットで土の上に置く。その上にジョイフル山新で買った花壇用の土を振りかけ、水で湿らせた。買ってきた種6袋のうち2袋半。これで芽を出し2, 3枚葉になったら西側花壇に植え替え、残りの種を第2弾として鉢に蒔こうと。然るに…。

8. この夏の、偏西風が蛇行しているからか何だか、猛烈な雨。植木鉢に降り注ぐこと4度。蒔いたビオラの種は霧吹きで湿らす程度と、育て方解説にはあるが、そこへ猛烈な雨。雨は土が跳ね上がってしまうほどの激しさで、種も鉢から飛び出してしまったのではないか。小さな種なので探すこともできない。



12. 竹を少し大きな鉢に移しました。スポンジで育てていた苗をどこからか貰ってきたもの。竹は育てたことがない。庭に植えると思いきり根を伸ばし始めるような気がして、まずは少し大きめの鉢に。窮屈そうになったらまた少し大きめの鉢に…。



13. 玄関のタイルを留めているセメントペーストが白華現象を起して、タイルに石灰がこびりついている。長らく気になっていた。木工用のヤスリとたわしとセメント用強酸で除去。かなりきれいになったがもう少し。そのうち…、と思っているうちにまたこびりつくのだろう。

■2008年6月22日 猫 on the ミミズ箱

1. ウンチ禍の張本人。こっちが困っていることなぞどこぞの世界のことかと。



2. ヤマボウシの花びら。



3. 屋下がり。室内から玄関先を見る。



■2008年6月14日 どうしたんだ、ヒペリカム・カリシナム

1. 今月初めに遂にヒペリカム・カリシナムを入手。「これからどんどん入荷しますよ」と4月の終わりに係の人は言っていたが、人気があるのだろうか。花木センターに4回足を運んでようやくゲット。残り5鉢全部はさすがに気が引けて4鉢購入。すでにかなり成長していてイキイキとしていた。これを先週末6月7日に西側花壇に地植えにした。

2. そうです。日く付きの、と言うか、一画は何を植えても枯れてしまう花壇。猫がウンチをする場所です。ウンチをされるたびに取り除いて、多量の水を撒いて土を洗っているつもりなのですが、それでもだめだった。今まで生きて花を咲かせたのはヒマワリくらいか。ヒペリカム・カリシナムなら強そうだし挑戦。

3. 猫のウンチ場所から離れたところに植えた一株は、↓



そしてウンチ場所だったところでは↓



もはや枯れ始めているではないですか……。一体どうしたらいいのだろう。猫ウンチに含まれる「毒素」は何だ？

■2008年4月27日 脱走ミミズ

1. 我が家に1本だけ残っている躑躅です。数年前に千波湖畔の花木市で小さな鉢植えを3つ求め、そのうちのひとつ。爆発したのかと思うほど思いっきり咲いています。



それにしてもここまで不格好に咲くかね。ハナミズキもいつもの真っ白な花を開かせ、

4. いちごが勝手にボコボコとなります。3年ほど前にプランター1個を隣家から貰い、蔓が這い出て伸び庭に蔓延る(はびこる)ことになった。以来毎年実を付ける。もとより世話をしていない。どんどん野生化している。(放って置けばワイルド・ストロベリーになり…ません。←こういう冗談ははっきり否定しておかないとウカウカと信ずる人がいますからね。)



5. 畦など作っていないので実が土に触れて腐ってしまうし、大きく育っておいしそうなのは鳥につつかれているか、虫が入っている。そういったものはミミズ箱行き、残りの3分の1くらいは収穫。明日にでもジャムを作ってみよう。

6. そろそろ今夏1回目のシラカシの散髪をしなくてはいいけない。毎朝隣のお宅の敷地に葉が落ちて掃いている。本数が多すぎるのも問題と言えば問題。ヤマボウシの葉と重なってしまい、風通しが悪くなり、弱い方のヤマボウシは葉が真っ黒になる黒死病にかかる。シラカシは1本置きに残すか。

7. そろそろと言えば、今年は風船かずらをたくさん植えて日よけにしようか。種は昨秋に収穫した(2007年11月24日の写真)。それにヒマワリはどうか。昨年の出来は不満足だった。再挑戦か。…その前にヒペリカム・カリシナムだ。

どういうわけか、多くは細い間に枝みたいのがいっぱい出て太らない。これはたぶん食用にはできない。太いのも(写真では1本だけ)ウカウカしている間に枝が出てしまった。うまいことタイミングよく切り取って食べないといけな

2. ところで、ややショックである。冬の間、庭には、乾燥を防ぐために土が露出しないように落葉を撒いておいた。ミミズ箱の前には刈り取った草や枝を。その下はいつも湿っているので、ミミズ箱から落ちこちてプラスチック箱の中に入れなかったミミズも、この湿地で生き延びることが出来るだろうと思っていた。

3. 今日枝や枯れた草木をめぐって驚いた。たくさんミミズがこの下で生活している。箸で拾い集めてミミズ箱に戻した。下の写真はその半分ほど。小さなミミズが何匹もいたので、ここである程度長い期間コミュニティが存在



アスパラガスもスクスク育っています。



していたことになる。ミミズ箱の真下に戻ってはずに、新しい居場所を見つけていた。アウトドア生活というところか。



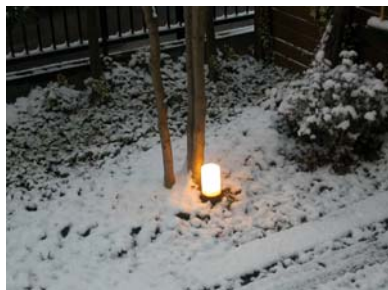
■2008年3月8日 すっかり春

1.1年前の日記と同じく冬の間はご無沙汰です。実際冬の間はあまり変化がないけど。庭にまではみ出していたエヴァは一旦すっかり切り取ってしまいました。3月に入って梅は咲きました。

2.昨年11月に新調した新しいミミズ箱の蓋は、さすがに今のところ反りもしないで健全。冬の間もミミズのエサはずとやり続けておりました。あまり食欲はないので嵩が減らず箱の中は満杯です。3月5日の啓蟄を経てそろそろミミズ君たちの食欲も増すことでしょう。

■2008年1月17日 雪景色

そうそう、そう来なくては。冬なんですから。



■2007年11月24日 ミミズ箱の蓋を新調・箱を移動

1.ミミズ箱の蓋は、「2005年8月 ミミズ箱Ⅲ号登場」以来2年を経、用を足さなくなりました。薄い一枚板の蓋は反ってミミズ箱本体との隙間がひどくなったことと割れてしまったためです。ミズアブの侵入も雨も防げなくなりました。新しく作った蓋が下の写真です。

5.ミミズ箱をどかした跡地には、義父から受け継いだヒイラギを地植えしました。下の写真ではよくわかりませんが、鉢植えにしていたところいつからか葉っぱがスカスカになって来たことと、一部の葉が茶色く変色するようになりました。鉢が小さくて窮屈なのが原因ではないかと。今が植え替え時だったかどうかは知りません。

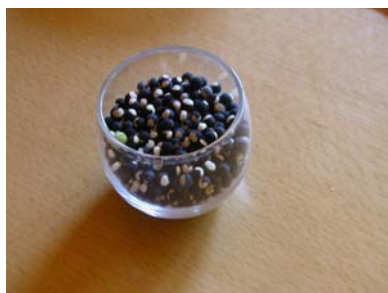


2.先代との違いは、厚手の細長い板を継ぎ合わせたことと、その結果重くなったこと。板を継ぎ合わせることであまり反らないでしょう。それと、「2006年7月29日 みみず箱の蓋を改良」のように工夫しても結局ミズアブの侵入には無力だったので、蓋を重くして本体との隙間を少しでも小さく保てることのできればいいとの気休め。

3.それとミズ箱を移動しました。庭の西側から東側へ。今までの朝日と違って西日が当る位置になりましたが、梅の木やハナミズキの木が遮ってくれるでしょう。



4.上の写真のミズ箱の左にモサッと見える緑は風船かずらです。種をもらってこの夏撒いたら3箇所ですくすく成長。そのうち一株です。うまく誘導してやらなかったのできれいに伸びず絡み合っています。11月も終わりになるというのにまだ枯れません。風船は茶色くなってその中の種を収穫しています(下の写真)が、まだ青い風船が出来ています。



■2007年7月29日 「これでもかヒマワリ」奮闘中

1.ヒマワリにあんなにたくさんの種類があることを himawari's homepageさんの**ヒマワリ百選**で知った。何種類かの種をホームセンターで適当に買って片っ端から植えた。例年より力を入れ、庭をヒマワリだからけにして「これでもかヒマワリ」状態を目指す。が、今のところうまく行っていない。

2.地植えだけではとても面積が足りないので、あまり背が高くならない種のために植木鉢も動員。それとヒマワリはあまり根が大きくなれないと思うので、2リットルのペットボトルを10個ばかり利用。ペットボトルむき出しでは格好悪いし、何より不安定なので、木枠を作った。これはこれで結構時間がかかった。ダボ使いの練習になった。こうしておけば持ち運べて2Fのベランダにヒマワリを。



6.7月29日のダイアリーで報告しますと言っていたヒマワリ。やっぱり「これでもかヒマワリ」状態にはなりませんでした。種を適当に蒔けば花が咲く、のは昔ながらの背の高い種類で、その他の種はせつせつと世話をしやらないといけないのでしよう(あたりまえか・・・)。「大輪一重咲」の背丈トップ3は3m10cm、2m80cm、2m60cmでした。

7.トマトのプランターに入れたツチミズ。予想どおり、トマトを収穫した後の土の中からは一匹も見つかりませんでした。プランターをどけてみると2、3匹いました。このようにして逃げ出したか、土の中で死んで微生物に分解されてしまったのでしよう。ともかくは我が家の庭にも結構多くのツチミズが生息していることがわかりました。

8.ところで昨夏はサルスベリの赤い花がやたらと目立ちました。こんなにあるのかと驚いたほど多くの家にあります。それも長い間咲いていたように思います。百日紅とはよくぞ付けたものです。一方、僕は「ああ秋だな」と金木犀の香りで気付くのですが、この秋はあつという間に香りが過ぎていってしまったように思います。いろいろと周期があるのでしょうか。

9.この夏に田舎に帰ったときには、背の低い百日紅の木を発見。一瞬つつじかと思ったほど。これなら我が家の小さな庭でも、隣家にご迷惑をかけずに、楽しめるかも知れない。鉢植えもあるそう。

10.今日県立歴史館の横を通りました。今年は紅葉が遅いと思っていたのですが、**歴史館の銀杏**はちょうど今が見頃でしょう。

ペットボトルには「サンリッチパイン」と「サンリッチオレンジ」。上の写真でサンリッチパインが一輪だけ咲いている。

その他はまだ成長中だろうが何ともひ弱だ。これらの失敗は何故？根が大きくなれないとは言え、植木鉢やペットボトルではさすがに窮屈すぎるのではないか。それと土。市販の植物の土を使ったのだが、透水性が良すぎるのかすぐに土が乾く。水不足で成長しないのか。Himawari's homepageさんの**よくある質問**によれば、水不足だ。せつせつと水やりして今から復活することを期待しよう。報告します。

5.下の写真は庭の奥の方からの眺め。アカパンサスは今も誇るように咲いている。右側にほんの一部写っているのはトマト2種。名前は忘れた。赤い小粒と黄色い大粒。日に何粒かずつ収穫できて食卓へ。皮が厚くて固い。プロだとこの辺をうまく工夫して改良されるんでしような。



3.しかし、今のところ、ヒマワリは芳しくない。「大輪一重咲」とか「モネパレット」のように、いかにもヒマワリっぽいの、背が伸びるタイプのはスクスク育っている。「大輪一重咲」が1本、やたらと背が伸びて本日現在2.5m超。それでもまだ花は咲いていない。長雨のせいかな。満を持して一気に大輪を見せてくれるか。(「大輪一重咲」は、[ヒマワリ百選](#))にはリストアップされていない。これは商品名でしょうか。)

4.植木鉢は「ミニヒマワリ小夏」と「グッドスマイル」。ことごとく成長不良で、無理に咲かせた花は見栄えがしない。可哀想なので写真も載せない。「小夏」を1枚だけ



■2007年7月22日 立派なアカパンサス・待ち遠しい蓮の花

1.去年鉢植えで育ちすぎて地植えにしたアカパンサスがすっかり丈夫に育ちました。写真4葉。



ところでミミズ箱のミミズは至って元気です。新鮮な生ゴミは1週間で原型を留めない。それから草取りした草を放置しておくとその下にツチミズが集まる。朝に夕に草をソツとどけて、ミミズをトマトのプランターに入れている。ミミズによって土がどんどん肥えて来ることでしょうか・・・とは期待し過ぎ。ツチミズはどうも環境に非常に敏感のようで、土の種類が違うと逃げ出すか死ぬかでしょう。

2.ところで今年は[茨城県立歴史館](#)の蓮の花が遅いようです。早朝のウォーキング途中に何枚か撮って来ました。それにしても幻想的な花ですね。





(この蓮池は借楽園公園のものだそうです。今回茨城県立歴史館のHPで知りました。)

■2007年4月29日 コンポストの使い方は？

1. 庭や植木鉢にミミズコンポストを使うときは、庭の土や市販の土(赤玉土など)に少量の肥料とともに混ぜ込んでいる。混ぜ込む量は適当。たとえば土と同量くらいかそれ以下。で、そのように作った土で、なぜか草花の生育が悪いように思う。土なら何でもいいのかと思えるようなひまわりなどは育って花を咲かせるが、それでも充分な咲き方ではないのかも知れない。

2. メアリー・アップルホフさんの『だれでもできるミミズで生ごみリサイクル』(合同出版)によれば、ミミズコンポストの使用量についてはそれほど注意する必要はなさそう。ならば成分か？「ミミズの糞には普通の土より窒素分が5倍、リンが7倍、カリウムが11倍多く含まれている」といったような記述は良く見かける。

3. 当たり前だが、成分は、与えるエサの量やミミズの数や完熟度など製造条件によって異なる。花本建設さんのように、エサも製造条件も決まっている場合は出来上がるコンポストの成分は一定だが(そうでないと製品に出来ないし)、個人の家ではどうか。土より栄養分に富むことは違いないだろうと思っているのだが、栄養分に極端に偏りが無いかが気になる。あれば、不足分を市販の肥料などで補ってやらねばならない。まあ、もう一度ミミズの本を読んでみるか。

4. ちなみに、以前は、取れたての水分に富んだフレッシュなコンポストを土に混ぜていたのだが、ネトネトになって水はけが悪かった。現在はベランダで乾かし(次の写真2枚)・・・、



ふるいにかけて保存(下の写真)。黒みが足りないのは成熟度が足りないからか。エサを与えすぎたか。



5. ちなみに今の庭の様子。こうして見ると悪くない。



■2007年4月1日 ああ、久しぶりにドジった

1. いかに暖冬とは言え、さすがに冬の間はミズ君も食欲が落ちるので、我が家で発生する生ゴミを順調には消化してくれない。生ゴミが溜まることになる。冬の間は生ゴミ貯留場所として、使う予定のないポリバケツを用意。かつてゴミ容器として使っていた下の写真のような少し大きめのヤツ。これに金具でばかっと押さえつける蓋が付いている。



2. この容器底の方に、本体のミズ箱の方から小分けしたミミコンとミズ何匹かを入れ、それに生ゴミを。それが確か12月頃。以後本体ミズ箱に入りきれない生ゴミを主に白菜などの「新鮮」野菜を入れて続けた。今日まで何度か中を覗いた限りでは、ミズは元気で、ゆっくりだが順調にミミコンが製造されていた模様。

3. それが今日蓋を開けて見て愕然。中は水浸しでミズは溺死。水面に浮かんでいた。おそらく全滅。それと強烈なドブ臭。ずっと以前、まだワイン箱で作ったミズ箱の頃、夏に何度か箱をひっくり返して空気に曝した、あのときを遙かに凌ぐ強烈な臭い。いくら多量の野菜を入れていたとは言え、その水分だけであんなにならないだろう。何日か前の大雨が入ったのだろうか。とにかくこのまま放っておいてはそれこそムシが湧くだけ。腐った野菜はミズ君の好餌だから、その猛烈な臭いのする中身を本体ミズ箱の中にドバッとぶちまけた。近づくとドブ臭がするが何日か経てばなくなるだろう。ああ、失敗。

■2007年3月4日 暖冬、そして春

1. 5ヶ月のご無沙汰です。暖冬、だそうで、そう言えば今冬は雪が降りませんでした。このまま春になります。目に付く県外ナンバーの車は借樂園に向うのでしょう。梅はもうすっかり満開でしょうね。近所にちょっとした白梅林あり。町内会の書類配りのついでに写真を撮って来ました。



4. アスパラガスがムキムキ伸びていた、家の西側の細長い花壇には今年もピンクの花が咲きました。シラネという雑草らしいと聞いたが本当？ ちなみにムキムキ伸びたアスパラは根元で切ってしまいました。



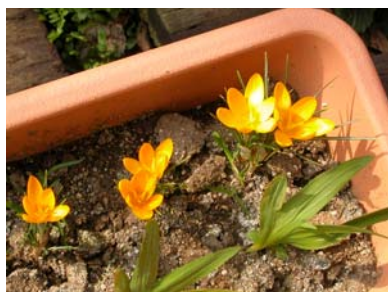
5. 3月4日の日記で「夏に作った物置箱。蓋はしっかり反りました。」と書いたが、反ったがために奥行きが「縮んで」、蓋としての用を足さなくなるのではないか。ベランダに置いてあるからいいようなものの、雨が吹き込んだら、縮んだ結果出来た隙間から雨が入ると思う。いずれ蓋だけ作り直すか。



3. 箱庭のヒイラギナンテンが気になっています。切っても切っても茂ってくるので、去年思い切って2株を根元に近いところで決断したら、成長しなくなりました。まだ生きているのだろうか。黄色い花を咲かせて今年も成長するぞと言っている株もあるのですが。



2. その他庭のご報告としては、クロッカスが咲き、一部アスパラガスがムキムキ伸びています。このアスパラはどうしたらいいのでしょうか？3年未満ですから切ってしまうのでしょうか？



■2006年10月1日 かぼちゃ、その後

1. 9月30日、ついにかぼちゃを収穫(?)。下の8月19日から大きくはならず、結局直径10cm程度のかぼちゃが1個だけ出来た。肥料をやったわけでもないのによくここまで育ってくれました。



■2006年8月20日 かぼちゃ、だよな？

1. 我が家では生ゴミは全部ミズ箱行きだ。野菜の種もそのままポイポイ放り込むから、ミズ箱の中でいろんな芽が出る。栄養はすこぶるよいのである。



4. 夏に作った物置箱。蓋はしっかり反りました。



2. あとは開いてみて食べる気になれば試食します。

4. さらに1週間後の8月13日には花を咲かせ、

2. ミズ箱はフーフルー型だから底からコンポストを取り出すのだが、野菜の種のようにミズが食べなかったものが一緒に落ちこちる。ミズ箱の下の土から芽を出した植物がグイグイ伸びている。これはカボチャですね。7月29日。



3. 1週間後の8月5日は↓となり、



■2006年8月5日 物置箱完成！ 嗚呼、超ビギナー日曜大工

1. 我が家には物置小屋というのがない。そこで、庭仕事用具だとか鉢だとかホームセンターで買ってきた肥料だとか、いろいろベランダに並ぶこととなった。これが気に入らなかった。どうしたって雑然としている。そこで物置小屋ならぬ物置箱を作ることにした。小屋ほど大袈裟なものはいらないし、建てるスペースもない。チェスト型というか横長の箱を作ることにした。作ると決めたのが昨夏、早速パソコン上で図面を引いて設計し、材料もそこそこ揃えた。

2. そこからが長かった。材料を養生していたわけではない。放置していた。その間幾度となく雨に晒され、風に吹かれ、灼熱に乾燥され、「反れる」だけ「反った」。おまけに、設計変更、と言えども聞こえがいいが、つまりは途中で何度か気が変わった。最大の「変更」は、当初庭に置くことにしていたのが、「ベランダじゃダメなの？」と言う家内の一言で「変更」。

3. 何とかかんとか、まあ、出来ました。超ビギナー日曜大工。間近で見るとはご遠慮下さい。



4. その後も伸びてます。8月19日。ロクに肥料をやっていないのでまともな実はならないでしょうが、最後まで見届けて見よう。



4. 正面右端だけ部分的に緑色なのはアクセント、と言いたいところですが、「設計変更」の所為です。最初の設計では幅は150cmで、ラワン材をそのような長さにホームセンターでカットしてもらって買って来たのです。設計図を横目で見ながら「そうだ、もっと長くしよう」と。でも1枚2,600円もする板を6枚も買い直すのはもったいない、余った木で継ぎ足そう…。かくして満身創痍的たたずまいに。

5. 庭仕事用具だとか鉢だとかホームセンターで買ってきた肥料だとか、それから今までは玄関横の収納棚に押し込んでいた大工道具一式も、納める。手前の板と背面板の内側にレールを作り、実質的には内部を2段にしている。納まったようです。



7. ところで、隣の方が、風で折れて落ちたプチトマトの枝を下さいました。もらったときは、枝になっていたトマトは緑色でしたが、放っておいたら赤くなりました。ということは、緑が赤に変色する原因は、土から吸収する栄養分ではなくて、光だとか湿度だとか温度だとかの環境条件なのですね。なるほど～～～。



■2006年7月29日 みみず箱の蓋を改良

1. 「2005年8月 ミミズ箱Ⅲ号登場」以来1年間使ってきたミミズ箱ですが、蓋がどうも思わしくない。どなたかのサイトで紹介されていたのを真似てヤシ繊維マットを蓋の内側に張り付けたのだが、張り付け方が下手で、ミスアブなどの侵入に対して殆ど無力だった。

2. そこでスポンジを試してみることにした。最近どこのホームセンターでも売っている、百円ショップでも売っている、ドイツ製の・・・とかいうやつである。30cmくらいの長さのを何本か買って来て、カッターで切り、ボンドで張り付けた。



3. ヤシ繊維に比べて通気性は見るからに劣る。しかし、全体が水浸しにでもならない限り大丈夫だろう。これでしばらく様子を見てみることにする。今年はやたらとナメクジが多いなあ。

■2006年5月1日 新緑

1. ミミズ君達は、すこぶる元気である。俺達の季節が来たと言わんばかりにうごめいている。

2. ハナミズキが花をつけた。毎年同じ事に喜び毎年写真をとっているような気がするが、それほどに春というか季節の変わったのを身近で感ずるのは素直に嬉しい。

4. 早やワイルド・ストロベリーの花。今年も繁茂しそうだ。



5. 大根の花。モノの本で読んだとおり、スーパーマーケットで買った大根の首を捨てずに水につけておいたら、やっぱり花が咲いた。



### 3. やまぼうし。



#### ■2006年3月11日 2006年ミズ始動

1. このところ、1週間分溜めた生ゴミとコーヒーかすを週末にミズ箱に投入している。今朝はフタをとってビックリ。結構な数のミズがうごめいているのが見えた。コンポスト表面においた温度計は13℃。春めいてきて、いよいよミズも2006年度の活動を開始か。庭の梅も数日前から花を咲かせている。→

2. 今年はミズについては何をしましょうかね。去年はツチミズの導入に見事に失敗したので、今年は再挑戦しようか。ミズだけで庭の土が肥えてくれるのが理想なのだが。

